



名古屋市の魅力を取り戻すための東山動物園の オランウータン繁殖計画へのヒト生殖医療の応用

ライフサイエンス

Keywords

生殖免疫学、不育症、プロテアーゼ、学びなおし

オランウータンと研究者



所属

医学研究科 高度医療教育研究センター

専門分野

生殖免疫学、周産期学、不育症、リカレント教育

所属学会

日本産科婦人科学会、日本生殖免疫学会、日本病態プロテアーゼ学会

HP

<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/obgyne.dir/index.html>

尾崎 康彦 教授 (診療担当)

研究概要

ヒトと同様の婦人科内診所見をボルネオオランウータンに応用し、発情時の子宮および卵巣に関する情報を収集した。超音波診断から、卵胞期の子宮内膜および卵胞のサイズは発情ホルモン濃度と相関して変化していることが明らかとなった。また、排卵誘発剤は、卵胞サイズが22.3 mmの時のみ効果が得られた。ヒトの排卵前最大卵胞サイズは20 mm程度と言われている。よって、オランウータンも同様の卵胞サイズを持つことが考えられた。

関連する論文

Kinoshita K, Nakamura T, Kimura K, Shimizu M, Kuze N, **Ozaki Y**. Gynaecological diagnosis by ultrasound and the measurement of urinary sex steroid hormone in female orangutans (*Pongo spp.*), *Veterinary Medicine and Science*, 6(3) 612-616, 2020.

<http://dx.doi.org/10.1002/vms3.237>

今後の展望／実用化イメージ

本研究をさらに推進することでヒト生殖医療をオランウータンに応用することにより、全世界の動物園飼育下のオランウータンのみならず動物園の大型類人猿の人工繁殖計画に寄与することを目的とする。

問い合わせ

産学官共創イノベーションセンター

(桜山キャンパス本部棟2階/事務局学術課内)

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地

(名古屋市営地下鉄桜通線「桜山」駅③出口すぐ)

☎ 052-853-8309 FAX 052-841-0261

✉ ncu-innovation@sec.nagoya-cu.ac.jp

共同研究者の木下こずえ先生 (京都大学・野生動物研究センター：左) と研究者



A動物園でのゴリラへの経腔超音波検査



A動物園でのゴリラの全身CT検査と読影



研究者からのメッセージ

現代の医学や医療は数多くの貴重な動物の命の犠牲のもとに発展して来た。追悼と感謝の気持ちと共に彼らにヒューマンサイエンスを還元すること (“Human Feedback”) が本研究のメインコンセプトである。